

- ・ DVD を見せるだけ等、座学中心ではなく、講話の途中で参加者へ質問を投げかけたり、立ち上がって体を動かしてもらったりする等、参加型の講話にしている。
- ・ また、出前講座で反射材についての話をする際や、高齢者自転車安全教室等のイベントで、実際に反射材を配布することがあるが、その際には、ゆるキャラ「いなりん」をあしらった反射材を配布している。
- ・ また、高齢者自転車安全教室等のイベント開催の際には、記者発表もすることで、新聞に掲載してもらい、更なる周知を図った。

(3) 連携先機関

- ・ 連携先機関は、警察と老人クラブ、交通少年団・防犯少年団等である。

連携先機関名	役割分担
警察	一部の講話に参加
老人クラブ	出前講座への参加、反射材の配布
交通少年団・防犯少年団	反射材のメッセージの作成

(4) 事業体制

- ・ 市の直轄事業であり、市職員と警察から市へ出向している者の4～5名が担当している。基本的に、市職員が講話も担当する。

当該事業予算	53千円
本事業担当職員数	4～5人

2. 取組の成果・効果

(1) 実績

- ・ 平成25年度は、18回開催し、参加人数は743名である。
- ・ 参加者の多い出前講座は、50名程度が参加し、少ない時は10名～20名程度である。
- ・ 反射材は、4,000個程度、作製したが、老人クラブにPRを行ったところ、2週間ですべてを配布した。

(2) 成果

- ・ 出前講座の実施により、交通安全に対する意識が高まったと評価している。
- ・ 例えば出前講話で反射材の大切さを説明し、実際に反射材を配布したところ、後日その反射材を参加者が身に付けており、講話により、交通安全意識が高まったと考えられる。
- ・ 市内の交通事故件数の推移は以下のとおり（第1当事者分のみ）。

	平成24年	平成25年	平成26年
交通事故件数	1,337	1,368	1,430
うち高齢者が関係した交通事故件数	243	242	293

3. 取組における課題・留意点と工夫点

(1) 課題・留意点

- ・ 老人クラブに加入していたり、老人クラブが開催する講話に参加したりする人は、交通安全意識の高い人である。交通事故に遭う高齢者は、このような意識の高い高齢者というよりは、自宅にこもりがち等、外部との接点をあまり持たない高齢者である。
- ・ しかし、このような高齢者の出前講座への参加を促すことが難しく、具体的な対応策（戸

別訪問等）を検討している。

(2) 取組における工夫点

- ・ 出前講座の具体的な内容を決定する際の工夫として、なかなか具体的な希望を説明できない団体・グループの担当者には、市の職員が、「参加者の年齢」、「移動手法（車に乗る人はいない、歩行者が多い、自転車が多い等）」、「身の回りで発生した事故」を聞き取り、これを基に、いくつかのテーマ案を提案し、団体・グループの希望を引き出すようにしている。
- ・ 出前講座の説明の工夫として、なるべく難しい話をしないようにしている。当たり前ではあるが、交通安全ルールを守ることが何より大事であるということを再三説明する。そして、時には話を脇道へそらし、雑学を交えた話をする等、関心をもってもらえる内容を心がけている。
- ・ 反射材の更なる周知として、記者発表等を行うことで、新聞に掲載してもらった。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 現在は、市の職員が中心となり実施しているが、熱心に取り組んでいる自治体は、交通安全教室専任の嘱託職員がおり、講話のスキルの蓄積等を考えると、体制の強化が課題とも考えられる。

4. 取組の状況

取組の状況	
	
<p>【取組事業を紹介したインターネットサイト】 http://www.city.toyokawa.lg.jp/saijibunka/ainomon/shogaidemae/shogaidemae.html</p>	

市町村人口 (平成 26 年 3 月 31 日)	交通事故死者数		
	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
184,962人	8人	7人	3人
	うち高齢者数 3人	うち高齢者数 3人	うち高齢者数 3人

【本件問い合わせ先】

愛知県豊川市

市民部人権交通防犯課

0533-89-2149

【事例 10】反射材ファッションショーの開催（富山県射水市）

ファッション性に欠けていた反射材のネガティブなイメージを払拭し日常生活での着用を促進するため、反射材のオシャレな活用方法を提案するファッションショーを開催

1. 取組内容**（1）取組の背景と目的**

- ・ 射水市では、夜間の事故防止のため、関係機関・団体を通じて高齢者に反射材を配布し、その利用を呼びかけてきたが、既存の反射材は機能が重視されていたため、「ファッション性に乏しい」「身に着けるのは格好が悪く抵抗がある」といったことを理由に、実際に使っている高齢者は少なく、ドライバーからは「夜間、反射材を付けていない歩行者にヒヤッとした」という声も数多く寄せられていた。
- ・ こうした状況のなか、反射材に対する従来のネガティブなイメージを一新し、反射材の活用を促進して高齢者の死亡事故の減少につなげるため、射水警察署長の発案により、反射材を使ったファッションショーを企画、開催することとなった。
- ・ 同市では、反射材ファッションショーをこれまでに2回開催している。
 - いみず交通安全 ピカッとファッションショー（平成 25 年 2 月）
 - いみず交通安全フェスタ（平成 25 年 9 月）

（2）実施内容**■いみず交通安全 ピカッとファッションショー**

（取組経緯）

- ・ ファッションショーを実施することが決まったものの、同市では類似のイベントを開催した経験が全くなく、手探り状態からのスタートだった。
- ・ ファッションショーの実現に向けては服飾系専門学校の協力が必要であると考えた同市は、電話帳などで調べて市内及び近隣にある専門学校に打診。その結果、高岡市の「安川専門学校ロイモード学院」から全面的な協力が得られることとなった。

（取組内容）

- ・ 同学院の安川良子校長や生徒が反射材を使った服、ストラップ、バッグ、小物類（ハート型の反射材を散りばめたスカーフなど）を 30 点ほど創作。安川校長がファッションの立場から反射材の効用について解説しながら、それらを身に付けたモデルに観客席側からスポットライトや懐中電灯で光を当て、ステージ上で帽子や上着などをピカッと浮かび上がらせるという演出を行った。
- ・ なお、モデル役は、交通安全母の会大島支部の会員が務めた。
- ・ ファッションショー終了後には反射材作品をステージ上に展示して安川校長と参加者が交流する場を設け、安川校長が「反射材をこういう風に活用してみるといいよ」等と直接アドバイスを送る場面もみられた。

- ・ 平日開催ということもあり、ファッションショーの主たるターゲットは高齢者層である。集客にあたっては、大島地区の老人クラブに声をかけたり、市内全域の交通安全母の会に参加を呼びかけた。

■いみず交通安全フェスタ

- ・ 富山県から射水市交通安全母の会への委託事業として、子供・親・祖父母の三世代が交流しながら、交通安全を学ぶ「いみず交通安全フェスタ」を実施することとなり、当該イベントの一プログラムとして反射材ファッションショーを開催した（別会場では交通安全教室などを同時開催）。
- ・ 前回のファッションショーでは、反射材の活用方法に関する提案を服飾系専門学校に依頼したが、今回は、市民からアイデアを募集しコンテストを行う、という市民参加型のイベントを企画した。
- ・ 具体的には、交通安全母の会の各役員（10名）がメンバーを選出してチームを編成。主催者側が提供する反射材等を利用して、誰もがお洒落に気軽に着用できる反射材の活用方法を考案し、3点以上の作品を創作する。
- ・ 審査員（安川専門学校ロイモード学院の安川校長、警察署長、射水交通安全協会、交通安全母の会、射水市など）による審査のもと、チーム単位で表彰し、参加した全チームに賞品を授与した。なお、モデル役は、母の会のメンバーや地元の保育園児が務めた。

（3）連携先機関

- ・ イベント実施にあたっては、警察、服飾系専門学校、交通安全母の会など、様々な関係者の協力を得ている。

■いみず交通安全 ピカッとファッションショー

連携先機関名	役割分担
服飾専門学校（安川専門学校ロイモード学院）	・ 反射材作品の創作（但し、反射材材料は市が提供） ・ ファッションショーの全体構成や演出方法等の企画立案 ・ ファッションショーの司会 ・ 等
警察、交通安全対策協議会など	・ 市と共同でファッションショーを企画・運営
交通安全母の会	・ 市と共同でファッションショーを企画・運営 ・ モデル役の提供 ・ 参加者の募集
老人クラブ	・ 参加者の募集

■いみず交通安全フェスタ

連携先機関名	役割分担
交通安全母の会、警察、交通安全対策協議会など	・ 市と共同でファッションショーを企画・運営
地元保育園	・ モデル役の提供

（4）事業体制

当該事業予算	いみず交通安全フェスタ：400千円（県からの委託費）
本事業担当職員数	2人

2. 取組の成果・効果

(1) 実績

■いみず交通安全 ピカッとファッションショー

- ・ 開始日時：平成 25 年 2 月 27 日（水）
- ・ 開催場所：射水市大島絵本館 シアター
- ・ 事業形態：市の単独事業
- ・ 参加者：約 200 人

■いみず交通安全フェスタ

- ・ 開催日時：平成 25 年 9 月 28 日（土）
- ・ 開催場所：新湊南部中学校（ファッションショーは同校の視聴覚ルームで開催）
- ・ 事業形態：県からの委託事業
- ・ 参加者：約 180 人

(2) 成果

- ・ ファッションショーの開催前後で反射材を着用する人がどれだけ増えたかまでを把握するのは難しいが、反射材の効果に関する知識や利用意識の向上につながったのではないかと評価している。交通安全活動に熱心な方の中には、反射材を縫い付けたバッグをオリジナルで製作して老人クラブに贈呈する人もいる。
- ・ また、三世代交流事業では、子供と保護者が一緒になって交通安全を学ぶことができ、楽しいイベントであったとの声が多かったほか、これまで交通安全に対して無関心な方に対して反射材の効果を知ってもらうなど、普及啓発面において“新規層の掘り起こし”につながった。特に、反射材の効果を視覚的に訴えることによって、参加者に与えるインパクトは格段に向上した。
- ・ なお、市内の交通事故件数の推移は以下のとおりである。

	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
交通事故件数	431 件	381 件	370 件
うち、高齢者が関係した交通事故件数	131 件	117 件	113 件

3. 取組における課題・留意点と工夫点

(1) 課題・留意点

- ・ ファッションショーのような各種イベントに参加する高齢者には反射材の効用をアピールできるが、参加しない人たちに普及啓発していくのは難しい。
- ・ 交通安全教室の参加を地域に依頼しても、参加メンバーがいつも同じであるケースも多い。交通安全事業に限ったことではないが、自宅にこもりがちな高齢者の参加をいかに促すかについては大きな課題となっている。
- ・ 三世代交流事業では、手作りファッションショーや交通安全教室など様々なイベントを一度に体験できたという声が寄せられた一方で、イベントにボリューム感が出すぎて、参加者が屋内外を転々とする等、スケジュール的に慌ただしくなる場面も見受けられた。

(2) 取組における工夫点

- ・ 当市ではマスコミへの PR を重視している。どんなに有意義なイベントを開催しても、市民が知らないままではその実施効果も限定的になってしまうので、イベントの開催前後には新聞社やテレビ局等に声をかけ、記事にってもらうよう働きかけている。
- ・ また、イベントをいつ開催するかも重要なポイントである。マスコミが忙しい時期にイ

イベントを開催すると、取り上げられる確率は低くなるため、イベントの開催時期をあえてずらしたこともある(例:衆議院選挙期間とイベントの開催がバッティングした場合、イベントの開催日程を変更した事例があった)。

- ・ また、子供を巻き込んで世代間交流を図っている場合、取り上げられる確率が高くなる。

(3) 今後の課題・展望

(事業の費用対効果)

- ・ ファッションショーのような手作り系イベントは実施効果も大きいですが、企画、準備等には関係者の多大な協力が必要となる。今後は、投入するマンパワーやコストも考慮しながら、費用対効果という観点から効率的にアピールできる交通安全関連事業を展開していきたい。

(他分野との連携)

- ・ 最近、高齢者の特殊詐欺被害が大きいので、交通安全のみならず、他分野とも連携していく必要がある。
- ・ 平成 26 年 8 月には、高齢者に役立つ特殊詐欺や交通事故等の未然防止に関する情報や、認知症の高齢者のかたが行方不明になった場合の情報を共有することを目的として、射水市と射水警察署が「高齢者安全ネットワーク」の協定を締結している。
- ・ 今後は、こうした介護・福祉系のネットワークも活用しながら、民生委員や居宅介護事業所、地域包括支援センター等を通じて普段なかなか情報が届かない高齢者に対しても普及啓発していきたい。

4. 取組の状況



市町村人口 (平成 27 年 1 月末)	交通事故死者数		
	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
94,624 人	2 人	7 人	1 人
	うち高齢者数 1 人	うち高齢者数 4 人	うち高齢者数 1 人

【本件問い合わせ先】

富山県射水市 市民環境部 生活安全課 生活安全係 0766-52-7966

事業分類	2.グッズ・冊子
------	----------

【事例 11】長崎県高齢者交通事故防止総合対策事業（長崎県）

老人クラブ等に参加していない高齢者の意識啓発として、医療施設窓口や商業施設にポスター等を掲載

1. 取組の内容

（1）取組の背景と目的

- ・ 高齢者は、情報等が行き届かないこともあり、交通安全の重要性を理解してもらうため、決め細かな交通ルールの遵守の呼びかけを行うこととして実施している。

（2）実施内容

- ・ 交通安全に対する意識啓発のため、高齢者に、反射材、ライト、パンフレット・チラシ等のグッズを配布している。
- ・ ライトはLEDライト（単価 100 円程度）にしており、気軽にポケットに入れられるよう軽量化している。
- ・ パンフレット・チラシについては、昨年から配布しており、医師会、薬剤師会、歯科医師会の病院全てに配布している。また、病院を訪れる高齢者に、受付等でひと言交通安全について声掛けしてもらうようにしている。

（3）連携先機関

- ・ 町内会、民生委員、商店会、老人クラブ等の地域組織や交通安全協会、警察の協力を得て、反射材等の配布を行っている。
- ・ また、商業施設（ショッピングセンター等）、病院の協力を得て、啓発チラシ等の掲載も行っている。商業施設とは、交通安全に関わらず、様々な政策分野で連携している。

連携先機関名	役割分担
町内会、民生委員、商店会、老人クラブ、交通安全協会、警察	反射材等の配布
商業施設、病院	啓発チラシ等の掲載

（4）事業体制

- ・ 事業予算は、4,783 千円、県職員で本事業を担当する職員は 3 名である。

当該事業予算	4,783千円
本事業担当職員数	3人

2. 取組の成果・効果

(1) 実績

- ・ 以下の病院にチラシを配布し、掲載依頼を行った。
 - 長崎県医師会加盟 1,400 病院
 - 長崎県薬剤師会加盟病院 750 病院
 - 長崎県歯科医師会加盟病院 810 病院

(2) 成果

- ・ 交通安全に対する意識の向上等により、病院周辺での交通死亡事故が発生していない。
- ・ 県内の交通事故件数の推移は以下のとおり。

	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
交通事故件数	7,032	7,165	6,465
うち高齢者が関係した交通事故件数	1,784	2,002	1,923

3. 取組における課題・留意点と工夫点

(1) 課題・留意点

- ・ グッズ・冊子等に対する高齢者のニーズを把握することが難しい。
- ・ 警察と協力し、高齢者が身につけやすいグッズの検討を行ったり、高齢者が参加する様々な会合で、どのようなグッズが欲しいかアンケート調査をしたりしているが、実際に外出している高齢者で、反射材を身に付けていない方もいる。
- ・ また、自宅にこもりがちな高齢者（独居の方など）への配布、周知徹底も課題である。

(2) 取組における工夫点

- ・ 高齢者が日常的に利用している医療関係施設の窓口において、交通ルール遵守の声かけを行い、老人クラブ等に参加していない高齢者へ広報啓発できるようにしている。
- ・ 高齢者のニーズを踏まえた反射材等を作成するため、アンケート調査を実施したところ、“常に持ち歩くバックに付けられると良い”という意見があり、反射材付きのエコバックを作成し、県主催の交通安全イベント等で配布した。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 引き続き、高齢者のニーズを踏まえたグッズ・冊子の検討や、ポスター等による周知徹底を引き続き行っていく。